

めでる

「滋賀が好き！」な医療人を応援します

vol. 2



長浜の街並み



長浜市立湖北病院 杉野診療所



木の本地蔵



杉野診療所



長浜赤十字病院 ヘリポート



長浜名物「のうべうどん」

2012.6

目次 Contents

- スポットライト 「私たちのやっていること」 —三方よし研究会—
副理事長 小鳥 輝男 …… 2・3
- 特集① 春の宿泊研修 in 余呉・長浜等湖北方面 …… 4～9
- 特集② 滋賀医科大学 里親学生支援室ニュース
—里親・里親登録学生からの近況報告— …… 10・11
- 病院紹介 公立甲賀病院／近江八幡市立総合医療センター／大津市民病院 … 12～17
- 実習情報 県内各病院の実習・見学会情報 …… 18・19
- 特集③ 総会報告 …… 20～22
- 入会のご案内・会員の現状／事務局職員紹介・編集後記 …… 23・24

『私たちのやっていること』

—三方よし研究会—



小鳥輝男

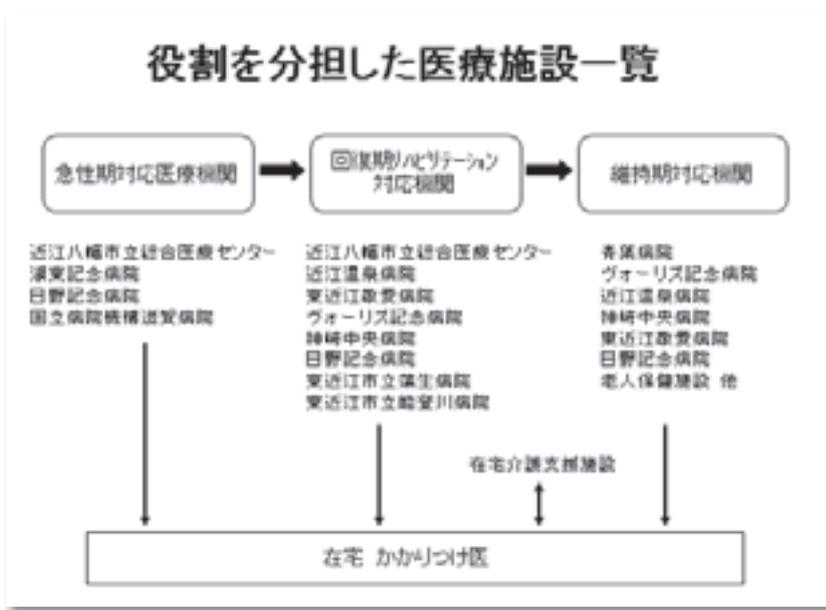
NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」副理事長
滋賀県医師会代議員会 副議長
小串医院 院長

先般、市民向けに私たちのやっている行動を易しく説明した文章があるのでまずここにご紹介します。

『イヤだけど病気に罹ったとしたら皆様は、すぐ診てもらいたい、どこでも診てもらいたい、一番良い方法で治してもらいたい、早く自宅に戻りたいと思われるでしょう。全部よく理解できます。ところが今の日本の会計事情は火の車、そんなことができる訳がありません。じゃどうしたらいいでしょう。脳梗塞を例にお話しします。

片方の手足、顔半分の麻痺、しびれが起こる、呂律が回らない、ふらふらとして歩けないというような症状が現れたら脳梗塞が疑われます、すぐに救急車で入院しなければなりません。脳梗塞は時間との戦いです。早く治療を開始するほど結果は良くなります。ところが不幸にして入院が長引きなかなか退院できない方も出てまいります。そうするとどうなるでしょうか。すぐ病院が満床となり一刻を争う患者さんがすぐには入院できなくなってしまいます。これをどうやって解決するか。それが我々のやっている脳卒中クリティカルパス研究会すなわち三方よし研究会なのです。

解決方法は急性期、回復期、維持期の病院、施設を地域で役割分担を話し合い決定する（図1）。その代り患者さんは急性期で回復したら次の回復期の病院に十分な連絡帳「三方よし手帳」（図2）を



<図1>



患者情報と患者容態が詳しく記載されており 次の施設へ患者さんと一緒に動く手帳

<図2>

三方よし研究会（東近江地域医療連携ネットワーク研究会） ～「患者よし・機関よし・地域よし」の地域を目指して～

患者さん本位の視点に立った医療・保健・福祉・介護の切れ目のないサービスの提供体制を構築するため、関係機関の機能分担と連携のあり方を、毎月1回、圏域内の病院・診療所・介護施設・公共機関などの関係者が一堂に集まり「顔の見える関係づくり」を合言葉に行われています。

テーマに圏域内の脳卒中の連携事例や連携パスの共通様式の検討、その時々に応じた医療、介護に関することをあげ、毎回、100名近い方々が参加されています。

（滋賀県ホームページより抜粋）

持って転院する。そこでさらに回復したらまた手帳を持って維持期の施設へ移動する。もっと回復したらまた手帳を持ってかかりつけ医に提示（図3）し、自宅に退院する。そうすることにより急性期、回復期、維持期の施設のベッドの空きが生じ、急性期の患者も受け入れ可能となるのです。どうです、良いアイデアでしょう。

しかしお互い利害関係がある、すんなりと図1が完成したわけではありません。そのために平成19年9月より毎月一回、医師、薬剤師、看護師、リハビリ療法士、地域連携室、行政等の関係者が100人以上集まり車座で顔と顔をお互い見ながら（図4）、粘り強く論議をして作成し、合意したものです。また施設を移るといことは患者さんにとり不安なものです。それを取り除くためには施設同士の顔の見える関係があると「あーあの施設の患者さんか、この間も来ていただいた」と受け入れもスムーズになります。三方よし手帳はそのために考案されたものですし、三方よし研究会は患者さんの不安の除去と最も良い治療すなわち自宅リハビリがどうしたら可能になるかを常に真剣に皆で考えている研究会なのです。』

この方式により我が方のクリティカルパスは全国的にも有名になってきており、誇れる実績も上げつつあります。二つの論文投稿中であり、いずれ公開予定です。



<図3>



<図4>

春の宿泊研修

in 余呉・長浜等湖北方面

「余呉・長浜等湖北方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、3月22日(木)～23日(金)の2日間、滋賀県で学ぶ医学生・看護学生や滋賀県出身の医学生・看護学生を対象に地域・医療理解の為に宿泊研修を実施しました。今回は、滋賀医科大学と自治医科大学の医学生6名と看護学生1名を含む総勢15名での研修となりました。



1日目 旧長浜市内見学と病院見学を行いました

長浜市内見学 (大通寺→ながはま御坊表参道→曳山博物館)

長浜市役所健康推進課地域医療室ご推薦の名所をボランティアの方に案内いただきました。

長浜曳山まつりに
ついて伺いました



長浜赤十字病院 (説明・見学)

東日本大震災時における石巻赤十字病院の活動記録DVDを視聴、病院の施設見学をしました。



市立長浜病院 (説明・見学)

勤務されている先輩医師らの体験談に基づくたくさんのアドバイスを頂き院内見学をしました。



ヘリポートを見学!!
柵がなくドキドキ

長浜ロイヤルホテル (交流会・宿泊)

交流会第1部

長浜市立湖北病院 田中新司先生のご講演
テーマ「湖北病院と地域医療について」

学生からも
たくさん質問が
寄せられました



交流会第2部

訪問先の市立長浜病院に勤務されている滋賀医科大学卒の先生、長浜市役所やプチ里親など11名の方々にご参加いただき、それぞれの立場から貴重なご意見をいただきました。学生からは、本日の研修での感想や医師又は看護師を目指すきっかけなどの話があり、密度の濃い意見交換・交流の場がもてました。



2日目 旧高月町・旧木之本町内の見学と病院見学を行いました

旧高月町・旧木之本町見学
 (雨森芳洲庵→渡岸寺観音堂(向源寺)
 →木之本地蔵院)



儒学者である雨森芳洲の生涯とは？



渡岸寺の国宝十一面観音の美しいすがたは必見☆



眼病平癒で信仰を
あつめている
木之本地蔵院

長浜市立湖北病院 (説明・見学)
 病院内や併設する介護老人保健施設「湖北やすらぎの里」など4つの施設を見学。それぞれの施設の果たす役割について伺いました。



京都新聞社及び中日新聞社の同行取材がありました

杉野診療所 (長浜市立湖北病院) (診療見学・地域交流)
 週に1日出張診療をされている現場に同行。診療見学後、地域住民の方々や長浜市議会議員の方に地域の現状を伺いました。



■ 訪問先の皆さまから

研修を受け入れて



長浜赤十字病院
 院長 **濱上 洋**

滋賀医療人育成協力機構の湖北における「宿泊研修」の一環として3月22日に学生さん、担当職員の皆さんに長浜赤十字病院へ来院いただきました。

私の方から病院の概況を説明させていただいた後、限られた部署ですが見学に回り、最後に赤十字の原点ともいえる災害医療のための備蓄倉庫には特に熱心に見ていただいたように思います。滋賀県内の多様な医療施設を、学生時代から早期に関心をもって見聞き、将来の自分の進路決定の参考にさせていただくのは大いに結構なことと思います。ただ私自身の希望としては、県内の一般急性期病院で、救急当直があり、夜勤があり、重症患者の対応に苦慮する、けれども充実していて達成感のある3Kとも5Kとも言われるこの職場で働く仲間に加わって、できるだけ長く勤めていただきたいと心より願っております。

さてこの紙面をお借りして現在進行中の当院の改築

事業について少し説明させていただきます。

新本館が平成13年に竣工後、築40年を超えて耐震性が問題の2、3号館の全面改築が現地にてこの7月に完工します。急性期に重点を置いて100床から70床に減床しアメニティを改善した精神科の病棟および外来・透析・リハビリ・医局等の管理部門が8月に新2号館に移転予定です。限られたスペースの中で拡充したのは女性医師休憩室です。人目を気にせず休んでいただくため、3つのベッド・シャワー室・トイレ・パウダーコーナーを用意しました。今後増加していく女性医師のさまざまな立場と年齢層に配慮したつもりです。これからはどの施設でも必要なことでしょう。

9月より旧館の解体工事が始まり、救命救急センターの増築、内視鏡センターおよび外来化学療法室の増築移転、立体駐車場の整備等の全ての事業終了は平成25年一杯かかります。それまでは研修に来ていただく皆さんに、何らかのご不便をおかけすることになります。但し、ご承知の上でお願いいたします。



▲ご講演される濱上院長先生

■訪問先の皆さまから

長浜・余呉等湖北方面での 宿泊研修における市立長浜病院 見学について

市立長浜病院
院長 多賀 俊明



滋賀医科大学のみなさんの研修見学の来院は、振り返れば平成20年9月以来、2度目となりました。

この間、平成22年1月に長浜市が1市6町の合併を経て市域を広げたことを受け、市立長浜病院と湖北病院は、長浜市病院事業として一体的かつ効果的に滋賀県北部地域の医療を見据えた取り組みを進めて来ています。

そのうち市立長浜病院の主な取り組みとしては、地域がん診療連携拠点病院としてのがん診療の拡充・整備、回復期リハビリテーション病棟の開設などが挙げられますが、研修の際にみなさまに見学いただいた人工透析室についても、この4月からは、院内別棟において透析センターとして40床へ増床した上で稼働を開始しています。

当院は、在籍医師の約4分の1が滋賀医科大学の卒業生であります。見学の際には短い時間ではありましたが、先輩医師3名とお話いただく機会を設けさせていただきました。この3人の先生方から、三者三様の個性や考えを感じとっていただけたでしょうか。感じ方については医学生とか、看護学生とか、また学年によっても異なるとは思いますが、各々が各々に感じていただければよいと思っています。

こうした「ひと」との“出会い”、「ひと」との“輪”を大切にしていこうというのが、当院の理念「ひと中心の医療」の原点であります。この「ひと」には、患者さん、病院スタッフ、地域医療のスタッフ、地域住民



▲先輩医師からのお話の様子

の方々すべての人が含まれています。

この4月から病院長として、将来の希望に満ちあふれたみなさまとの出会いを通して、臨床研修病院として、これからの病院運営の新たな活力へとつなげていきたいと考えています。

みなさまにもこれから、数多くの「ひと」との出会いが待ち受けていることと思います。その一つひとつどれをとっても無駄になるものではなく、全てが自らの血となり肉となるものとなることなのでしょう。将来におけるこの出会いの輪に、この病院の「ひと」や、この地域の「ひと」が、加わってくることを期待してやみません。

研修を 受け入れて

市立長浜病院 心臓血管外科
河野 智



私は滋賀医科大学を卒業した後、京都大学医学部心臓血管外科教室に所属いたしました。その後、卒業して18年間はまったく滋賀県では働きませんでした。

長浜には平成16年に赴任しました。病院内では大学の先輩・後輩やクラブの後輩にも会え、会話の増加に伴い信頼度が上がり、診療しやすくなりました。診療というものは人が行うことですので、ちょっとしたことでうまく話が進み、思わぬ先進治療に結びつくこともあることを経験しました。

そんな折に、後輩と話をしてもらえないだろうかとお話がありました。当日、診療科の選択やその研修先の選択はその個人の自由なので、情熱を持ってもらいたいこと。またその情熱は興味を惹かれることでないと継続できないので、ぜひ、自分自身でよく考えて進路を考えてほしいこと。最近、インターネットで、年収や診療科の数だけで研修先を考えたり、また、立地だけで研修先を考えたりで情報の処理が安直に感じます。(ま、私も何も考えず、京大・心臓血管外科教室の門を叩きましたが)そして、十分に力をためた後は、ぜひ滋賀県内での診療がお薦めであること。をお話しました。肩肘張らない関係がどれほど、診療に集中できるか、違いは歴然としていとおもいます。

研修を受け入れて・交流会に参加して

長浜市立湖北病院 内科
副院長 田中 新司



宿泊研修一日目夜の交流会で湖北病院の歴史や診療の実情をお話させていただき、二日目の病院見学では併設の療養病棟や介護施設の見学、出張診療所の見学に同行させていただきました。今まで学生さんとお話する機会が少ないため、何を話していいのかわからず、期待に応えられなかったことと思います。

湖北病院は市立長浜病院や長浜赤十字病院とは役割が少し異なります。診療科や専門を超えて、地域医療の第一線を担っており、高齢者の慢性期医療から介護・福祉にもかかわっています。消化器科や血液透析をはじめ、専門的医療も可能な限り提供に努めています。

医師・看護師不足が深刻になり、“どうやって地域医療を守るか”がしばしば話題になりますが、医療の原点は本来“地域医療”であり、“地域住民の実情に合った、患者さんや家族が求める医療”であると思います。これを担うのが第一線の医療機関であり、後ろ盾には高次救急や高度専門医療を受け持つ病院が必要です。

地域医療は若い医師には敬遠されがちで、実際大変なことも多いですが、色々な境遇で生活し色々な考えを持った患者さんやご家族と身近に接する機会が多く、地域特有の文化に触れることが出来るなど、都市部の大病院にはないやりがいや楽しみもあります。

第一線で医療をするには幅広い臨床の知識や研修が必要で、救急医療や専門分野の経験も必要だと思います。一定期間色々な医療機関での研修や勤務を終えた医師達が、少しでも多く必要とされる地域での医療に携わってくださることを願います。

私自身今回の研修・交流会に参加して、自分のやってきた医療を振り返り、これから何をやって行かなければ

いけないかを考えるきっかけになりました。何よりもやる気に溢れ希望に燃えた学生さんのパワーをいただきました。今回



▲施設見学の様子

参加された学生さんが医師としてまた人間として成長され、またどこかで会えることを楽しみにしています。



▲交流会1部でご講演される田中副院長先生

杉野診療所での交流会に参加して

長浜市議会議員
松本 長治



前回（2009年）に引き続き、長浜市立湖北病院の職員の方から「学生さんの宿泊研修があり、杉野診療所での診察を視察した後、是非地元の方からいろんなお話をお聞かせいただきたいのですが」というお話がありました。前回も多くの学生の方が参加され、私自身も大変良い経験をさせていただきましたし、日頃から市立長浜病院をはじめ湖北病院の職員の皆さんが、地域医療の確立のためにご尽力いただいていることを大変ありがたく思っておりますので、私なりに少しでも何かお手伝いできればとの思いから、参加させていただきました。

今回は特に、医療を目指されている若い方々が、地域医療についてどのような思いを持っておられるか、また医療の現場を目指すことにどのような希望や不安を抱いておられるのか、是非お聞きしたいと思っておりました。お話をすることで、色々な悩みや不安をお持ちで、でも一生懸命技術を学び、頼りにされる『お医者さん』や『看護師さん』になりたいという、強い思いを感じることができ、大変有意義な時間となりました。

本来あるべき『医療のすがた』を、皆さま方の真摯なご活動がお支えいただいておりますことに、心から感謝いたします。



▲地域住民の皆さまとの交流の様子

交流会に参加の皆さまから

30年前の頃を 思い出しました

市立長浜病院 産婦人科
林 嘉彦



思いのほか今の学生さんはしっかりとしているなあという印象でした。30年前の自分たちはどうであったろうか？不安と焦燥と空腹の中、「麗門」でホルモンを食べていた頃を思い出しました。あの頃は将来の展望も何も無く、ひたすら空腹を満たして生活していくので精一杯でした。今の学生さんは目的意識をしっかりと持ち立派だなあという印象でした。でも、自分たちの時代もそうでしたが、きっとそのような立派な学生さんばかりでは無いのでしょうか。私は、研修に参加されず将来の不安と空腹でモンモンとしている学生さんたちに言いたいです。「単位は落としても、将来の夢と希望は持ち続けてください。」と。日本の医療の将来は、君たち若者にかかっているのだから。そして勉学に疲れたら、湖北、長浜の地に遊びに来てください。長浜には「麗門」はありませんが、焼き鳥の「だるまや」がありますので。連絡、お待ちしております。

この事業をもっと多くの人たちに 知ってもらおう

里親学生支援室 学外室員
熊澤 孝久



私は今回の宿泊研修には22日の交流会にのみ出席させていただきました。長浜市立湖北病院 副院長の田中新司先生から湖北の医療現状についてくわしく、わかりやすくご説明いただきました。今、私が直ちに何をどうお手伝いするということは出来ないにしても、あの様な情報をきくことによって関心を持つ、そして自分が今携っている仕事とどう結びつけてお役に立つことができるのか考えんといかなあとお感じしました。それにしても、折角ああしたい機会なのでからもう少し沢山の人来てほしいなあと思いました。住民のみなさまへの浸透に

ついて、事前に事務局のみなさんとの連絡を密にして、もっともっと協力していかなといかなあとお感じした次第です。

交流会に 出席して

長浜市健康推進課
保健師 筑田 敦紀



県内の医療機関で働きたいという若い方が本当におられるのだろうか？というのが交流会に出席させていただく前の私の率直な気持ちでした。県内でも北部は医師が少ない現状で、長浜市はこの事に危機感を感じており対策に取り組んでいます。

そんな私の疑問を一掃するように学生の皆さんは自分の理想とする医師や看護師像を語り、また県内で仕事がしたいと言っておられることにびっくりしました。このような方が県内の医療現場で活躍できるようなシステム作りが私達行政の役割であり、医療に携わる同志としての役割とも感じました。

私も夢を持って医療現場に出て、上手く行かず悩んだこと、でも患者さんや住民さんに教えられたこと、先輩や仲間を支えられているんな突破口を見つけたことを思い出しました。

学生さんの皆さんの話を聞かせていただき、私自身も沢山のことに気づき、新たな気持ちで仕事に取り組むことができ感謝しています。ぜひ、学生の皆さんには今の思いを持ち続け、医療現場で活躍していただきたいと思います。



▲交流会2部での交流の様子

宿泊研修に参加して (学生の声)



▲長浜御坊大通寺にて

滋賀医科大学 医学科2年生 池田 朝彦

東京都出身ですが昨年10月に滋賀医科大学に編入し、将来滋賀県で働くことを視野に入れ県のことをもっと知りたいと思い参加しました。

黒壁観光、市立病院見学など訪れた地域どこも興味深いものでしたが、特に湖北のへき地医療を担う杉野診療所の風景が心に残りました。

利用者の方々の話にじっくり耳を傾けながら診察を進めていく先生の姿を拝見し、その地域に求められる医療を提供できることが大切だということを感じました。

2日間非常に充実した研修で、地域医療に関心がある学生だけでなく、まだよく知らない、わからないという学生もぜひ参加してほしいと思いました。夏期研修ではクラスメートを誘ってまた来たいと思います。

滋賀医科大学 医学科4年生 辻野 絵美

観光で訪れたことのある長浜に対して、休日には若者を含めた多くの観光客で賑わう活気のある地域という印象を持っていました。しかしそれは湖北地域の一部の側面ではなく、山間部のみならず市街地である長浜市内でも限界集落が生まれ、医療者側の高齢化も進んでいるという状況を知りました。

今回、地域住民の方々も交えた交流会に参加させていただいた中で、医療を求める切実な声や在宅での看取りに対する考えなどを直接伺いすることができ、普段の大学内での学習のみではなかなか得られない貴重な機会となり、「地域の方々によって医師は育てられる」という言葉に実感が伴うようになりました。

今回の研修を通じて、今後臨床研修先を含めてより具体的に将来について考えていくためのヒントをたくさんいただいたように思います。ありがとうございました。

自治医科大学 医学科2年生 八坂 寛久

宿泊研修には去年の夏に初めて参加させていただき、今回で2回目になります。長浜赤十字病院と市立長浜病院では都会に劣らない高度で充実した医療が提供されており、湖北地域の医療のイメージが少し変わりました。湖北病院は療養型、老健、特養、ケアハウスを併設し、福祉に重点が置かれていることが特徴的で、地域のニーズに応じて病棟のあり方も大きくかわるということがわかりました。学生の参加は前回の半分ほどでしたが、人数が少ない分、他の参加者や先生方、地元の方のお話をじっくり聞くことができましたのはよかったです。滋賀の地域医療の現実、医師不足の背景など、教えられること、考えさせられることが沢山ありました。特に、湖北で働く先生方が湖北の土地と人を愛し、地域の医療を支える使命感を強く持っておられたのが印象的でした。改めて滋賀の地域医療がとても魅力的なものに感じられる2日間でした。

滋賀医科大学 医学科3年生 藤井 彰夫

今回はじめて宿泊研修に参加させていただきました。2日間ではありましたが、少人数であったため地域の方や先生と積極的にお話できたように思います。特に印象深かったのは、長浜市立湖北病院の地域・へき地医療への取り組みでした。湖北病院は介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、ケアハウスを併設し高齢者医療や福祉に対応していました。また定期的に診療所での診察を行い、医療資源の不足に対してできる限りの医療を実践されていました。そしてそれらが続けてきた結果、地域の方と病院や先生との間に強い信頼が生まれており、「医師は地域や地域の方によって育てられる。」という田中先生や林先生のお話を実感することができました。

地域医療だけでなく、地域の歴史にも触れることができ2日間充実した研修を送ることができました。ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科1年生 石川 継洋

今回の宿泊研修は参加学生数こそ7人と少なかったものの、それ故に研修先および教職員の方々とお話しさせていただく機会が多く、有意義なものとなりました。普段は行きたくてもなかなか行く機会のなかった長浜を中心とした湖北に触れ、またその地域医療を垣間見られたことは、滋賀での医療従事を希望する私にとって貴重な体験でした（郷土食であるのっぺいうどんや鮎寿司も美味でした）。

地元の方々から「期待しています」とのお言葉をいただきましたが、これを糧に更に日々の勉学に励みたいと思います。

滋賀医科大学 医学科2年生 西野 裕香

宿泊研修に参加するのはこれで三度目になります。長浜にある病院見学や観光地を訪問させて頂き、また一つ、滋賀県の魅力に触れることができました。

今回の研修では、学生が自分の意見を発表するなど、ディスカッションの場が多く設けられていたように思います。また、地元の方々ともお話しする場を頂きました。たった二日間ではありましたが、自分の地域医療に対する姿勢を問い直し、もっと真剣に考えなくてはいけないのではないかと考えた貴重な時間になりました。

滋賀医科大学 看護学科1年生 鷲田 奈緒

この研修には今回初めて参加させて頂きました。以前より地域医療に関心はあったのですが、今回の研修で実際に地域に根ざした医療のあり方を見る事ができ、また観光で滋賀の良さを改めて感じる事ができました。生まれ育った滋賀の為に、医療人として自分は何ができるのかを考えていきたいと思っています。



▲木の本地蔵院にて



▲長浜の曳山の蔵を見学

注) 学年は平成24年3月時点のものです。

滋賀医科大学 里親学生支援室ニュース



■ 里親の皆さまからの近況報告 ■

宮本整形外科（野洲市） 医師 宮本 敏広

私は滋賀県の病院に勤務するため、初めて滋賀県にきました。以後、JR東海道線には二つの新駅が設置され、新快速電車は敦賀まで運転されるようになり、最近では新名神高速道が開通して非常に利便性が向上しました。もちろん豊かな自然に恵まれていて、住みやすいと思っており、現在は整形外科診療所を開設しています。

診療所ですので病院で行っていたような手術や重症の患者さんの治療は行っておりません。しかし、大病院で緊張感を持って長い間勤務させていただいたおかげで身につけることができた幅広い経験や知識、思考力を生かして診療にあたっています。また、積極的に学会に参加するようにしています。診療所では病院とは違った医療現場がみえるので、診療所医としての研究や学会発表、論文作成もできると思います。滋賀県ではそのような診療を行うことや里親学生支援に協力することによって、私が大学入学以来お世話になったさまざまな方へ、わずかながら恩返しできているのではないかと思います。

滋賀医大の学生さんは課外活動や長期休暇中の行事などでお忙しいため、里親としてあまり交流できないこともあります。しかし、常に学生さんのことは考えていますので遠慮なく声をかけてください。

最後に、学生や研修医の皆さんが積極的に滋賀県で医療に従事したいと希望し、本当に快適に過ごせるように、医療関係者はもちろん、県民や患者の皆さんのご配慮とご協力をお願いいたします。

滋賀医科大学医学部附属病院 看護部2C病棟 看護師 白石 知子

滋賀医科大学看護学科1期生の白石と申します。現在、滋賀医科大学の附属病院の回復期リハビリテーション病棟に勤務しています。私は、看護学科時代から地域・在宅看護に興味がありました。看護学科卒業後は附属病院へ勤務しましたが、その後訪問看護ステーション、大学院で在宅看護について学び、4年前に滋賀医大附属病院に再就職しました。そして、昨年、地域看護専門看護師を取得しました。

里親学生支援プログラムの発足後、里親として声をかけて頂きました。そして、2009年看護学科1年生の地域看護に興味のある子と里親里子の関係が始まりました。ちょうど同じ時期、同じ職場の先輩看護師も里親里子関係が始まるということで、私たち里親2人、里子ちゃん2人の計4名で直接食事会をして交流を深めました。

里子ちゃん達が1～3年生の時は、授業や学生生活、クラブについての話も多く、里親の私達も学生時代の若い気持ちを取り戻すことができ刺激になりました。そして、里子ちゃん達は今年4年生。4年生となると、実習や就職、卒試、国試という具体的な悩みもでてきます。これからが私たち里親の出番！今までも見守ってきましたが、またサポート出来るように頑張っていきますので、何かあれば気軽に声をかけて下さいね☆



▲里子である看護学科4年生の学生と一緒に

★ 里親募集 ★

平成24年度は、新1年生10名が里親登録学生として、滋賀医科大学里親学生支援事業に参加します。里親学生支援室では、学生の里親となって、主に月2回程度メールでのやり取りを行っていただいたり、ご都合があれば交流会等の行事にご参加いただき、滋賀県で医療に携わる立場から滋賀県における医療人の必要性などを伝えていただける医師・看護師・保健師・助産師の方を募集しています。登録は里親学生支援室ホームページから行えます。

里親募集 → <http://satooya.shiga-med.ac.jp> 里親募集フォームよりご登録ください。

■ 里親登録学生より 近況報告 ■

里親登録学生の医学科5年生15名が「滋賀医科大学 スチューデントドクター」に認定され、4月から滋賀医科大学医学部附属病院及び国立病院機構滋賀病院での臨床実習が始まりました。また、看護学科では7名の学生が最終学年を迎えることとなりました。

各学科を代表して4名の方に近況報告を書いて頂きました。

写真は、スチューデントドクターとなった医学科5年生の登録学生に集合を願ったものです。臨床実習終了後の夕方に集合時間を設定したのですが、臨床実習が長引き集まることができたのは写真のとおり少人数となりました。しかし、それぞれの学生は生き生きとした顔をしており、きっと充実した臨床実習を行っていることでしょう。

滋賀医科大学 看護学科4年生 市川 瑞希

最終学年を迎えて将来のことを考えなくてはならない時期になりました。

もう最終学年なんて……あっという間だなと感じています。

3年生後期から実習が始まり様々な病棟、地域で多くのことを学ばせていただいています。

実習中、宿泊研修でお世話になった方にお会いできることもありますし、病棟でも里親の看護師さんが声をかけてくださることもあります。「多くの方に支えられている」と心強く感じ、感謝しています。

お世話になっている里親の方には実習や日々の話だけでなく将来のことについてアドバイスいただいたりと、今もたくさんメールをさせていただいています。

最近は実習やゼミと重なって里親の活動に参加できていませんが春に良い報告ができるように日々を過ごしていこうと思います。

滋賀医科大学 医学科5年生 渡邊 幸香

「スチューデントドクターとなって」

病院実習が始まってまだ2ヵ月ですが、これまでの勉強の中で、いま最も充実感を覚えています。日々、熱心にご指導して下さる先生方にお出合いでき、医学の知識をどのように生かして患者さんを救っておられるか、どんな言葉をかけて患者さんへの処置や説明をされているか、毎日が大切な勉強になります。

スチューデントドクターという立場は、2年後は医師として患者さんと向き合うことになるのだという自覚と、学生として患者さんに受け入れてもらっているという感謝を忘れずにいさせてくれます。医師にならせてもらう前の必要な学びとして礼儀として、この1年間を大切に、頑張っていきたいです。



滋賀医科大学 看護学科4年生 佐々木 允里

「最終学年を迎えて」

気が付けばもう最終学年になっていることにとっても驚いています。3年間を振り返ると学校に部活動、アルバイト、旅行などとても充実した生活を送っていたと思います。4年生では実習に卒業論文、国家試験、就職試験が待っています。最後の大きな試練という感じで私もしっかりしないといけないなと、気合が入ります。また、私は助産師課程に進んでおり、助産の実習も夏から始まるということで、楽しみ半分、不安な気持ちもあります。今まで習ってきたことを実践し、自分ももっと成長できるように大学最後の1年間、頑張っていきたいと思います。

滋賀医科大学 医学科5年生 竹田 善也

5年生になりまして、病院での臨床実習が始まりました。今までとは違い、実際の患者さんを相手にして勉強させていただいているので、教科書での勉強だけでは得られないような経験を日々させていただいております。実習では、担当患者さんは多くても二人までしか割り当てられてないので、よくお話をさせていただいていますが、働くようになって担当患者さんがもっと増えてもいいコミュニケーションをとってほしいよう、医学的な知識はもちろん、患者さんとの接し方など学問的なこと以外についても勉強していきたいです。



病院の名前は知っているが、どんな病院か全く知らない方が多いのではないのでしょうか。

このコーナーは、そんな地域のみなさまや医学生・看護学生のみなさまに、滋賀県内の医療機関を知ってもらうために設けました。

まずは、県内臨床研修指定病院から自己紹介していただきます。

公立甲賀病院

所在地：〒528-0014 滋賀県甲賀市水口町鹿深3番39号

電話：(0748) 62-0234

FAX：(0748) 63-0588

URL：<http://www.kohka-hp.or.jp/>

公立甲賀病院は、甲賀市・湖南市の国民健康保険の組合立病院として地方自治法、国民健康保険法に則り、地域住民の保健・医療・介護・福祉に貢献するために

理念

私たちは、個人の人格を尊重し、思いやりの心をもって信頼される全人的医療を実践します。

使命

- 1、チーム医療を実践し、信頼される医療を提供します。
- 2、救急医療を積極的に実践します。
- 3、地域住民の健康づくりに取り組みます。
- 4、早期発見・早期治療に取り組みます。
- 5、次世代の医療人育成に努めます。

医の倫理要綱

- 1、私たちは、生命の尊重と人間愛を基本とし、医療者として常に専門的な知識と技術の修得に努めます。
- 2、私たちは、全ての医療行為において、患者の権利を尊重し、互いに努力して適切な医療を提供します。
- 3、私たちは、医療を通じて社会の発展に尽くすと共に、法に従い、社会秩序の保持に努めます。

以上のことを掲げています。

新病院の開院は 平成25年4月1日

甲賀保健医療圏（人口約15万人）における中核的な国保病院（438床）として、甲賀市や湖南市の市民から期待を頂いている病院です。昭和14年（1939年）6月に水口町外24カ町村の産業組合病院として病床数70床で設立され、本年で73年となります。昭和35年（1960年）10月に自治体立病院に移管されました。水口町鹿深にある現病院は、老朽化や狭隘化の課題を抱え、耐震上の問題もあり水口町松尾地先に移転新築する事になりました。



新病院完成予想図

新病院は、平成25年（2013年）4月1日の開院を目指しており、21世紀に相応しい病院として医療機器の整備を行い、患者さんや病院職員の動線にも配慮し、電子カルテシステムも第三次構築が稼働致します。

患者さん本位の地域における中核的な国保病院として、「ハートフル甲賀。～愛、やさしさあふれる甲賀病院～」をコンセプトに新病院整備事業を進めています。新病院では、現病院で既に取り組んでいる下記の病院機能を更に充実させます。

① 地域医療支援機能

他の医療機関との連携を強化し、シームレスな医療提供体制を構築します。

② 地域災害医療センター機能（災害拠点病院機能）

災害医療における地域中核的機能を整備し、災害後3日間以上の自立運営が可能な病院となります。

③ 地域がん診療連携拠点病院の機能

質の高いがん医療を提供し、緩和ケア病床を新設します。

④ 地域包括医療・ケア機能

健診センターを新設し、早期発見・早期治療と共に健康づくりを推進します。

⑤ リハビリテーション機能

急速に進行する高齢化を踏まえ、回復期リハビリテーション病棟を新設すると共に、在宅患者さんへの訪問リハビリテーションを提供し、地域リハビリテーション機能を高めます。

⑥ 臨床研修・教育機能

医科・歯科の臨床研修病院として質の高い臨床研修を提供し、研修医が基本的診療能力を高められるよう教育・指導を行います。

医師、薬剤師、看護師等を目指す学生の実習施設です。

⑦ 2種感染症指定病院の機能

2種感染症をはじめ、感染症に対して積極的医療を提供します。

⑧ 病院ボランティア支援機能

病院ボランティアをはじめ、地域のボランティア活動を支援します。

⑨ 病児・病後児保育機能のある保育所の新設

保育所で市民の子育てを支援し、病院職員の家族（乳幼児）を24時間保育し、女性にやさしい病院作りに努めます。



病院長 富永 芳徳

今、日本は高齢化率約24%の世界一の超高齢社会となり、2050年には高齢化率が約40%となると推計されており、高齢者の医療が必要不可欠です。高齢者には多くの疾病があることが多く、急性期・救急医療を担う臓器別専門医と共に全人的医療を担える総合専門医が必要です。公立甲賀病院は、超高齢社会においてバランスの取れた全人的医療を提供しており、新病院で更に質の高い保健・医療・介護・福祉サービスに努めてまいります。公立甲賀病院ではプロフェッショナルとしてやる気のある若手医師・看護師の力が必要ですので宜しくお願いします。



臨床研修指導風景



症例検討会



健康講座

近江八幡市立総合医療センター

病院の概要

病床数：407床（含 感染症4床）

診療科目：内科、血液内科、腎臓内科、呼吸器内科、代謝・内分泌内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、麻酔科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科、放射線科、病理診断科、形成外科、心臓血管外科、救急診療科、リハビリテーション科



「四季を感じ、水・緑・光が薫るガーデンホスピタル」

当院は、「多くの人々との出会いを通じて、新しい医療環境の創造に努めます」を基本理念に掲げ、「ひとりひとりを大切に、優れた医療を提供する」ことを目指しています。実際に、高度・急性期病院として、新型救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院、災害拠点病院などの指定を受け、東近江医療圏内で完結する医療提供体制を構築するための核となっています。さらに、県下でも有数の規模を誇る腎臓センターだけではなく、個々の診療科がそれぞれの分野での専門性を追究し、「学びを明日に活かす」風土を醸成することも基本方針のひとつとして重視しています。



地域周産期母子医療センターとしての役割

滋賀県の基幹施設である「総合周産期母子医療センター」及び「周産期医療協力支援病院」、県内の各「周産期協力病院」と協力・連携体制を整備し、「地域周産期母子医療センター」として、地域の周産期医療機関を機能的にバックアップすることを目的としております。また、他の医療機関からの救急の患者さんの受け入れを24時間体制で行っております。



災害拠点病院・救命救急センター

県内に4施設ある救命救急センターの1つとして、地域の救急・集中医療の中核を担っています。また、大規模な災害発生時には災害拠点病院として地域の皆様を支えます。



医学生のみなさまへ

近江八幡市立総合医療センター 院長 榎 系



当院は、東近江医療圏における自治体病院として、私たちが果たすべき役割は何かという視座から地域医療に貢献しています。新病院移転前から取り組んできた医療連携の素地造りが移転後に芽吹き、年々、紹介患者数、救急車の搬入台数、入院患者数などが著明に増加しており、いまや名実ともに地域の基幹病院としての位置づけを確立しつつあります。そして同時に、それぞれの診療科が地域の需要に応えるべく、さらに上を目指して、activityの高い専門領域の拡大に努めています。

このような勢いのある病院だからこそ、医師としての基本的能力を培う最も大切な初期研修の時期に、当院はみなさん方が成長するためのお手伝いをすることができるでしょう。医師は何歳になろうとも、一生、医師としての素養を自分で磨き続けていかなければなりません。そのためには、初期研修と後期研修期間に当院で学ぶprimary careだけではなく、比較的若い時期に大学などで積む研究経験も大切です。臨床をacademicな側面から捉える経験は、医師としての診療能力を高めるはずです。当院は、その面においても、関係大学への案内など、お手伝いをさせていただくことができます。私たちとの出会いを通じて、誇りある医師としての第一歩を踏み出されることを期待しています。

看護学生のみなさまへ

近江八幡市立総合医療センター 看護部長 川西 良子



当センターでは、新人看護師さんも「しっかりした教育が受けられる研修体制」や「いきいきと働ける看護師を大切にしたい環境づくりと教育体制」を整えています。新人教育担当看護長が、「今一番必要な事」を、毎月の全体研修で企画しています。研修が臨床で活かせるように、各部署教育担当主任との連携を大切にしています。また、プリセプターシップで、深刻なリアリティーショックを体験することなく臨床に適應できるようサポートしています。共に成長できる仲間たちとの出会いを心よりお待ちしております。

看護部の詳しい情報はホームページをご覧ください

<http://www.kenkou1.com/nurse/index.html>

新人ナース（採用1～4年）から看護学生のみなさまへメッセージ



- 社会人経験を経て、当センターに就職しましたが、先輩は優しく、新人教育のカリキュラムも整っています。
- みんな同じ壁を乗り越えてきているから、辛いときは先輩に相談するのが一番です。
- つらいこともたくさんあると思いますが、頼れるスタッフがいっぱいいる病院です。
- 最後には絶対「看護が好き」って思えます。ぜひ一緒にがんばりましょう！



近江八幡市立総合医療センター

〒523-0082 滋賀県近江八幡市土田町1379番地
TEL (0748)33-3151(代表)・FAX(0748)33-4877
<http://www.kenkou1.com/>
E-mail 030202@city.omihachiman.lg.jp





所在地：〒520-0804 滋賀県大津市本宮2-9-9
 電話番号：077-522-4607
 FAX番号：077-521-5414
 URL：www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/
 開設年月日：昭和12年4月1日
 院長：片岡慶正
 病床数：506床（一般病床488床、その他感染症18床）
 診療科目



診療科部門				
総合内科	内科	消化器内科	呼吸器内科	神経内科
循環器内科	小児科	小児循環器内科	感染症科	外科
整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	呼吸器外科	産婦人科
泌尿器科	皮膚科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科
精神・診療内科	緩和ケア科	放射線科	麻酔科	病理診断科
救急診療科				

中央診療部門				
健診センター	消化器内視鏡センター	脳卒中センター	放射線部	臨床検査部
臨床工学部	外来通院手術部	手術部	集中治療部	血液浄化部
栄養部	リハビリテーション部		回復期リハビリテーション部	
薬剤部・医薬品情報管理室	通院治療室		神経難病臨床研究所	

院長直轄部門			
地域医療連携室	医療の質・安全管理室	診療情報管理室	臨床研修センター

付属施設		
大津市民病院付属看護専門学校	大津市訪問看護ステーション	院内保育園あゆっこ

臨床研修センター 約1400年の歴史をもつ湖都大津市は人口34万人の中核市で現在なお人口増加地域です。本院はびわ湖と比叡山が一望できる絶景に位置した病床数506床の急性期医療の基幹病院で、臨床研修指導医は32名です。



平成23年からハードおよびソフト両面から新たに『臨床研修センター』を創設して、若手医師をはじめとする医療人育成強化を推進しています。別館4階にセンター専用の図書室、個別デスクの研修室、休憩室、男女別の仮眠室とシャワー室に加えて教育用シミュレーション室を設けました。臨床研修センター長を含めた定期的ミーティングに加えて、毎年9月には研修医と指導医、院長を含む研修管理者、センター職員が宿泊研修し、よりよい研修環境を求めたコミュニケーションに努めています。

京都府立医科大学および京都大学からの“たすきがけ研修医”を併せて、病院を挙げた熱血研修プログラムを実施しています。平成24年度は研修医13名の笑顔が病院を活性化しています。

研修スケジュール

一年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	内科						麻酔科	精神科 産婦人科	救急	選択科目		
二年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	救急		地域医療	選択科目								

研修医一泊研修



代表的な施設認定

- 地域医療支援病院
- 厚生労働省臨床研修指定病院
- 救急告示病院
- 滋賀県地域がん診療連携支援病院
- 周産期協力医療機関
- 等
- 災害拠点病院（地域災害医療センター）
- 緩和ケア病棟設置病院
- 神経難病医療拠点病院
- 人口透析実施医療機関
- 感染症指定医療機関（第1種、第2種）
- 結核指定医療機関
- ISO9001（品質マネジメントシステム）認証施設

本年は、病院創立75年目の節目の年で、新たに策定した大津市民病院経営計画（平成24年～30年度）のスタートの初年度です。平成21年から3カ年計画での公立病院改革プランでは組織として多くの成果を挙げ、今後も継続的に病院機能を充実～進化するマネジメントシステムとしての7年計画での病院経営計画をキックオフすることができました。



大津市民病院計画（平成24年～30年度）
～次代に引き継ぐ市民とともにある病院をめざして～

**市民とともにある
健康・医療拠点**

- 基本方針
- ① 質の高い医療を効率的・安定的に24時間365日提供する病院
 - ② 幅広く市民の健康をサポートする病院
 - ③ 患者やその家族の気持ちを感じ取り行動していく病院
 - ④ 地域の医療機関が患者のために協働したくなる病院
 - ⑤ がんばりたい医療スタッフをひきつける病院
 - ⑥ しっかりとした経営感覚を持った病院
 - ⑦ 目標を設定し、持続的に進化する病院

“市民とともにある健康・医療拠点”を目指すべき姿として、また地域医療支援病院（平成15年承認）として、次世代に継承しうる病院創り、医療の質向上への終わりなき挑戦を続けています。現在、標榜診療科は24科、病床数506床で、地域の医療機関の先生方との医業分担と連携のもとに、大津医療圏の中核病院としての役割を果たしております。7：1看護師配置を基本とし、平均在院日数13日の急性期病院ですが、DPC（診断群分類別包括制度）対象一般病床455床の他に、感染症・結核病棟（18）、緩和ケア（20）、神経難病（30）、回復期リハビリテーション（41）などの病棟も運用しています。大津市内外の患者比率は4：1であるが、昨年度実績では救急搬送患者数は約3,100/年、手術件数は4,300/年、院内助産を含めて出産件数400/年であり、新規オープンした県下最大級の消化器内視鏡センターの充実を含めて臨床研修には十分な内容です。健診センター新設と連動させて、本年6月から2台目MRIとして3.0T-MRIをフル稼働させ、医療拠点とともに健康拠点としても邁進していきます。

この2年間で大幅な組織変更を行いました。診療局、看護局、事務局に加えて医療技術局の4局制とし、診療科部門と中央診療部門を分離して、役割分担の明確性と業務フローの効率化を図りました。これにより感染制御（ICT）、栄養サポート（NST）、呼吸サポート（RST）、褥瘡サポート、緩和ケアなどのチーム医療が大きく成熟してきました。これからも良質で安全な医療の提供、信頼される病院づくりに日夜努力を続けていきます。



消化器内視鏡センター



健診センター



本院マスコット・キャラクター



本院正面玄関

院長からのメッセージ：



本院の『臨床研修センター』では、初期臨床研修に加えてその後の専攻医研修プログラムと一貫した若手医師育成、さらには看護局や医療技術局などの医療スタッフの包括的育成の充実を目指した環境整備に努めています。臨床研修センター長は福井道彦診療局次長、副センター長は磯野元秀内科部長（滋賀医大卒）の熱血医師が担当しています。ERおおつ～ICU 6床～重症救急病棟（CCU & HCU 準拠26床）一連の初期研修では価値ある経験が多く積めると好評を得ています。時間外および休日では、15台のiPadやiPhoneを駆使したIT画像診断システムで放射線科や外科系医師と即座に連絡～連携できる安心と強みを発揮できます。救急医療現場と教育システムを強く結びつけることが、医療の質向上に役立つ一例です。定期的なCPC（年4～5回）、総合内科カンファや内科・外科合同カンファ、cancer boardを含めて臨床と画像、病理を総合的かつ体系的に学習できる環境が充実しています。学生の皆さまには将来の道を含めて、大きな門戸が開かれています。宜しくお願いいたします。

医学生・看護学生のみなさんへ

滋賀県内で開催予定の実習情報・病院見学・インターンシップなどの開催情報について寄せられた情報です。ぜひご活用ください。

ホームページ<http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/gakusei/index.htm>でも最新情報をご確認いただけます。

◆ 医学生のための「病院研修・実習・見学」

番号	病院名・機関名				
	対象者 学年等	実施内容	日程 開催期間	申込時期	連絡先
1	市立長浜病院 http://www.biwa.ne.jp/~nch/index.html				
	全学年	病院見学 ・各診療科見学、救急外来見 学、院内案内等	応相談 (半日～1週間 程度)	随時受付・随 時実施 (土日祝・休 診日除く)	総務課 0479-68-2324 nch-soumu@city. nagahama.lg.jp
2	弓削メディカルクリニック http://yugemed.com/				
	全学年	・外来 ・在宅医療 ・通所リハビリテーション 他	平日	随時	雨森正記 (FAX) 0748-57-1130
3	近江八幡市立総合医療センター http://www.kenkou1.com/				
	4～6年生	希望診療科の見学 (内容は希望により調整します)	随時	随時	川端あゆみ 0748-33-3151
4	びわこ学園医療福祉センター草津 http://www.biwakogakuen.or.jp/				
	全学年	障害児者医療の実習・見学 (病棟・外来・地域支援など)	随時 (1日～1週間 程度)	随時	口分田政夫 077-566-0701
5	琵琶湖養育院病院 http://www.kachokai.or.jp/				
	1年生	・診療見学 ・介護、看護見学 ・施設見学(病院、老人保健 施設)	7/24～25	開催日の5日 前締切	看護部長 稲岡 077-545-9191
6	大津市民病院 http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/				
	4、5年生	・サマースチューデントコース： 研修医のエスコートのもとに 病院研修を体験する 開催期間中の各週1名、計4 名定員	8/6～8/31 (研修日程は 1日～5日程 度)	HP参照	病院総務課 高橋純子 077-526-8516

◆ 看護学生のための「病院研修・実習・見学」

番号	病院名・機関名				
	対象者 学年等	実施内容	日程 開催期間	申込時期	連絡先
1	市立長浜病院 http://www.biwa.ne.jp/~nch/index.html				
	全学年	・インターンシップ 病棟見学実習 介護技術見学 先輩看護師との座談会など	8/1~8/31 ※上記以外の日程にも対応	4/2~	看護科長室 0479-68-2300
	全学年	・病院見学&説明会 看護師募集について 先輩看護師の話など	6/23・7/7 9:00~ 7/30・8/6 13:00~	随時	
2	弓削メディカルクリニック http://yugemed.com/				
	全学年	・訪問看護 ・他在宅療養を支える様々なサービスについて	平日の2~3日	随時	雨森千恵美 0748-57-1141
3	近江八幡市立総合医療センター http://www.kenkou1.com/				
	今年度卒業見 込学生	詳細はホームページ参照 ・インターンシップ: 9:30~16:30 ・病院見学会 10:00~12:00	6~10月	随時	総務課 就職担当 (TEL) 0748-33-3151 (FAX) 0748-33-4877
4	びわこ学園医療福祉センター草津 http://www.biwakogakuen.or.jp/				
	全学年	障害児者医療の実習・見学 (病棟・外来・地域支援など)	随時 (1日~1週間程度)	随時	逸見聡子 077-566-0707
5	滋賀県立小児保健医療センター http://www.med.shiga-pref.jp/mccs/				
	今年度卒業見 込学生	インターンシップサマープログラム	7~8月 (3日間コース)	7/6締切	看護部 川端悦子 077-582-6200 (内線7801)
		看護師就職のための施設見学	7/10、7/17、 7/24、7/25、 7/31、8/7、 8/14、8/21、 8/28	随時	
いつでも見学会		随時	随時		
6	大津市民病院 http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/				
	全学年	・病院看護局紹介 ・希望部署見学 ・先輩看護師との意見交換	7/23~8/10 (13:30~16:30)	随時	看護局参事 大山由紀子 077-522-4607
7	琵琶湖養育院病院 http://www.kachokai.or.jp/				
	2年生	インターンシップ	8/2、8/3、8/7、 8/8のいずれか	開催日の5 日前締切	看護部長 稲岡 077-545-9191
8	滋賀県立精神医療センター http://www.pref.shiga.jp/e/seishin/				
	全学年	病院見学	随時		白崎(看護部副部長) 077-567-5001
	2~4年生	就職説明会	6/24		
3~4年生	インターンシップ	7~9月末			

認定NPO法人になるため会費を見直しました

5月25日(金) 午後3時から、国立大学法人滋賀医科大学 臨床講義棟 1階 臨床講義室2において平成24年度通常総会を開催しました。

当日は雨天にもかかわらず、正会員の方々にご出席いただき次の6つの審議事項を承認いただきました。(正会員105名のうち95名が出席のうち表決委任者75名)

1. 平成23年度事業報告および決算報告について
2. 定款の一部変更について
3. 税制上の優遇措置を受けるための会費変更について
4. 平成24年度事業計画および予算計画について
5. 役員を選出について
6. その他

吉川理事長のあいさつ



特に「税制上の優遇措置を受けるための会費変更について」では、活発なご意見をいただき、今年度から会費金額は次のとおりとなります。

会員の種類		会 費		入会金(初年度のみ)
正会員	個人	正会員費 2,000円	寄附金 3,000円以上	5,000円
	団体	正会員費 5,000円	寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		1口 1,000円以上 ※できましたら、認定NPO法人の認定を得るため3,000円以上をお願いします		なし

今回、会費を変更する理由は、本機構への寄附者が税制上の優遇措置を受けられることのできる「認定NPO法人」の申請を平成25年4月以降に行うため、寄附者・寄附金に関する次の要件を満たすためです。

- ① 3,000円以上の寄附者が年平均100名以上いること。
- ② 経常収入金額のうち、寄附金等収入金額の占める割合が20%以上であること。
- ③ 「3,000円以上の寄附金」には、議決権を持つ「正会員費」は充てることはできない。

正会員、賛助会員の皆様におかれましては、追って郵送いたします「平成24年度会費納入のお願い」が届きました際には、事情をご理解いただきまして会費納入へのご協力をお願いします。

平成24年度事業計画も次ページのとおり承認いただきました。皆様からの会費と寄附金を有効使用し、活動を進めてまいります。

また、現役員はこの5月31日をもって任期満了となるため、総会において新理事・監事が選出されました。引き続き行われました平成24年度第2回理事会において、理事の互選により理事長、副理事長が決まりました。

任期は、平成24年6月1日～平成26年5月31日までの2年間です。

理事長	吉川 隆一	前滋賀医科大学長
副理事長	小鳥 輝男	滋賀県医師会代議員会副議長
同	服部 隆則	滋賀医科大学副学長
理事	石橋 美年子	滋賀県看護協会長
同	井下 照代	聖泉大学教授
同	埜田 和史	滋賀医科大学准教授
同	瀧川 薫	滋賀医科大学教授
同	富永 芳徳	滋賀県病院協会長
同	永田 啓	滋賀医科大学教授
同	花戸 貴司	自治医科大学滋賀県出身同窓会長
同	三ツ浪 健一	滋賀医科大学教授
監事	渡邊 一良	滋賀医科大学同窓会長
同	西川 甫	滋賀医科大学模擬患者の会代表

(敬称略・五十音順)

総会終了後は、滋賀医科大学のご厚意により、ご希望の方を対象に病院再開発が完了した附属病院の見学会を、柏木病院長のご案内で実施しました。



病院見学の様子



平成24年度 事業計画

◆ 医学生等を対象とした地域理解研修活動支援事業

滋賀医科大学里親学生支援室と共催で地域理解、地域医療者や住民との交流を目的とした宿泊研修を実施します。

8月に東近江地域、3月に甲賀地域で宿泊研修を実施します。

研修に県外から参加してくれる学生の経済的負担を軽くするために、可能な範囲で旅費援助を行う。



宿泊研修での様子

◆ 医学生等を対象とした地域医療ワークショップ支援事業

滋賀県出身自治医科大学同窓会「さざなみ会」との共催で、夏休みに地域医療ワークショップを開催し、地域医療の現状把握活動を行います。

体験学習

夏休みの7月～8月に少なくとも一日以上、地域の医療施設において体験学習を行います。

全体報告会・懇親会の開催

開催日時：8月25日(土) 午後からを予定しています。

開催場所：ピアザ淡海 305会議室

(滋賀県大津市におの浜1丁目1番20号 TEL 077-527-3315)

- 全体報告会にて、互いの体験を共有します。
- 第一線で働いている医師から、実際の地域医療の様子とその苦勞、やりがいなど生の声を聞きます。
- 懇親会にて、意見交換を行います。



ワークショップの様子

◆ 病院・診療所実習の企画・調整事業

県下の病院・診療所での実習情報を集め、学生のみなさまに広報します。

本誌18～19ページをご覧ください。

◆ 地域医療等に関する市民講座開催事業

地域自治体等からの講演要請に応じた演者の派遣等をおこない、地域の住民の方々へ医療に関する啓発活動を行います。

◆ 大学、病院、診療所等職員の学生指導レベル向上のための研修事業

教育・学生支援技術向上を目的に、県下医師・看護師養成機関教職員ならびに病院内指導者を対象に、秋に滋賀医科大学を会場としてFD研修会を開催します。

◆ 地域医療の担い手育成に必要な調査研究活動

県内看護系大学や看護専門学校などの関係機関と連携し、県内定着向上のため学生動向調査を行うなど県内関係機関を通じて大学以外の関係学校への調査を行い、今後の事業展開を図ります。

◆ 地域医療の担い手育成に関わる諸組織間の連絡調整事業

医学科・看護学科への進学を希望されている県内在住の高校生に、本機構の活動内容等を広報し、活動への参加を呼びかけます。

◆ 地域「里親」による医学生等支援事業

滋賀医科大学の地域「里親」による医学生等支援事業と連携して、学生と里親・プチ里親・市民との懇談会を開催します。

◆ 本法人の取り組みや活動内容を積極的に広報し、その取り組みの支援者増加を図る事業

広報誌「めでる」、ホームページ等により広報を行い、活動の普及を図ります。

◆ 本法人活動のための資金を確保する募金活動

昨年度の
滋賀医科大学学園祭では
ブースを設置しました！



入会のご案内

周囲の方にも、
一声おかけ下さい。

皆様からの会費と寄附金を財源として、平成24年度事業計画に基づき活動を進めてまいります。
本機構の目的にご賛同された関係団体、篤志の方々がご入会され、会費を納めていただくことにより活動が成り立ちますので、どうぞご協力いただきますようご案内いたします。

正会員： 本機構の目的に賛同して入会される個人または団体
(機構の活動について決議する総会の決議権を有します。)

正会員の種類	会 費		入会金 (初年度のみ)
個人	正会員費 2,000円	寄附金 3,000円以上	5,000円
団体	正会員費 5,000円	寄附金 5,000円以上	10,000円

- ・ 所定の入会申込書に必要事項をご記入いただき、事務局までご送信ください。
- ・ 指定の振込用紙にて、最寄りのゆうちょ銀行から会費をお振込みください。

賛助会員： 本機構の目的に賛同される個人または団体
個人・団体とも、1口1,000円以上
(できましたら、認定NPO法人の認定を得るため3,000円以上をお願いします)

- ・ 入会金をお支払いいただく必要はありません。
- ・ 指定の振込用紙にて、最寄りのゆうちょ銀行から会費をお振込みください。
- ・ 入会申込書をご提出いただく必要はありません。

会員の現状

法人の設立登記が終了し、活動を始めた昨年7月4日から今年3月31日までの間に、本機構の活動にご賛同いただき入会いただきました正会員、賛助会員、ご寄附をいただきました方々は次のとおりです。

お陰様で、平成23年度の事業を終了することができましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

入会状況

平成24年3月31日現在

会員種別等	入会・寄附者数	入 金 額	
個人正会員	65名	入会金及び年会費	850,000円
団体正会員	40団体	入会金及び年会費	910,000円
個人賛助会員	50名	賛助会費	301,000円
団体賛助会員	3団体	賛助会費	413,000円
ご寄附	1団体・8名	寄附金額	525,000円
ご協力	1団体		—

事務局職員紹介

本機構事務局は滋賀医科大学のご厚意で、滋賀医科大学管理棟1階にあります学生課内の「里親学生支援室」において仕事をしています。

昨年4月から、常勤の呉竹と、自宅で機構の事務仕事を行い、1週間に1回程度支援室に顔を出すボランティアの中森とともに仕事をまいりましたが、呉竹はこの6月末をもって退職します。

今年5月からは井戸が勤務しています。中森は、自宅で事務をしながら1週間に1回程度支援室に顔を出すという勤務形態ですが、事務局の責任者ということで事務局長名を拝命しました。よろしくお願いします。

常勤職員の給与は、滋賀県のご厚意による緊急雇用創出特別推進事業委託金に頼っております関係上、毎年常勤職員は変わりますが、事務局では、仕事はコツコツと積み上げて、次に引き継いでいきたいと思っています。今後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。



編集後記



去る5月25日に開催されました平成24年度通常総会において、昨年7月4日から始動した本機構の昨年度活動報告が承認され、今年度の活動計画が決まりました。

今年度の目標は、本機構の活動内容をより多くの皆様に知っていただき、ご支持を得ること！です。“認定NPO法人”としての認定を受けるため、「3,000円以上の寄附者が年平均100名以上である」という要件を満たすことをめざします。

そのためには本機構の活動内容を充実させることは言うまでもありません。

より充実した活動をしていくためにも、県民の皆様や学生の皆さんから「ドンドン」ご意見をいただきたいと思います。

2年目に入ります本機構へ、皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.2

発行：平成24年6月20日
編集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL：077-548-2802 FAX：077-548-2803
Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp
URL：<http://www.shiga-iryo-ikusei.jp>